

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-1 心通う旅に出会うまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	周遊観光の促進と新 たな観光資源の発掘	○観光閑散期等に対応する観光資源の検 討・発掘を行います。 ○内子座休館中の活用議論を活性化させるとともに、代替資源の発掘に取り組みま す。 ○二次交通対策として、レンタサイクルやE バイクの活用促進に引き続き取り組むとと もに、カーシェアリングなどの利用促進と 利便性の向上に取り組みます。	レンタサイクル の貸出人数（単 年度）	1,043人	1,892人	2,000人	★	○（一社）内子町観光協会と 連携したレンタサイクル事業 の周知、利用向上 ○カーシェア事業の周知及び 利用率向上と、新たなカー シェア事業の検討	●観光二次交通の利便性向上を図る ため、ビジターセンター及び旅里庵 においてレンタサイクルの案内や情 報提供を行い、利用促進を図った。 ●令和7年12月にJR内子駅へカー シェア車両を新たに1台導入し、二 次交通の充実を図るとともに、サイ ネージ等を活用した情報発信により 利用促進を行った。 ●内子座休館期間中の観光資源の検 討として、既存観光資源の活用や周 遊ルートを検討を行い、観光閑散期 等への対応に向けた検討を行った。
			カーシェア（レ ンタカー）のス テーション数	0カ所	2カ所	3カ所	★		
町並・地域振 興課	観光拠点と機能強化	○情報・交通の要所として、JR内子駅周辺 の機能強化に努めます。 ○五十崎地区の拠点である風博物館の魅力 を高め、集客力向上を目指します。 ○内子町移住体験交流施設等による企業と 連携したテレワーク推進、宿泊による田舎 暮らし体験を提供し、関係人口の創出や地 域の活性化を図ります。 ○道の駅等と連携した情報拠点整備を行 います。	五十崎風博物館 の入館者数（単 年度）	1,367人	2,074人	5,000人	★	○二次交通の拠点整備等の検 討 ○地域おこし協力隊と連携し た集客力向上	●JR内子駅を二次交通の拠点とする ため、民間事業者の協力を得てライ ドシェアの発着拠点を整備し、観光 客等の移動手段の確保に向けた受入 環境の整備を行った。 ●地域おこし協力隊と連携し、体験 事業やイベント、企画展示の充実を 図った結果、学校や団体等からの体 験依頼が増加し、来館者の増加に繋 げることができた。 ●道の駅等にデジタルサイネージを 導入し、情報発信のプラットフォーム として実運用を行った。
小田支所	観光拠点と機能強化	○小田深山エリアの観光拠点として、小田 深山渓谷周辺の拠点施設及び情報通信の整 備を行い、スキー場や宿泊施設、民間施設 との相乗効果を高め、小田深山ファンの獲 得と交流人口の拡大を図ります。 ○内子町移住体験交流施設等による企業と 連携したテレワーク推進、宿泊による田舎 暮らし体験を提供し、関係人口の創出や地 域の活性化を図ります。 ○道の駅等と連携した情報拠点整備を行 います。	小田深山エリア 来場者数（ス キー場・渓谷 等）（単年度）	30,000人	○スキー場 オフシーズン 2,818人 冬季 13,647人 ○渓谷来訪者 11,050人 合計 27,515人	50,000人	★	○渓谷遊歩道の整備 ○淵首三叉路・小田深山渓谷 ビジターセンターの施設整備 ・衛生通信網整備調査設計 ・水道整備工事（第2工区）等 ・三叉路用地整備 ●スキー場整備 ・第3リフト支えい索等更新工事 ・獅子越荘非常階段修繕等 ○スキー場整備 ・リフト支えい索更新工事 ・獅子越荘非常階段修繕等	●小田深山渓谷遊歩道整備 （5ヶ年計画の完了） ●淵首三叉路・小田深山渓谷ビ ジターセンターの施設整備 ・衛星通信網整備調査設計 ・ビジターセンター実施設計 ・水道整備工事（第2工区）等 ・三叉路用地整備 ●スキー場整備 ・第3リフト支えい索等更新工事 ・獅子越荘非常階段修繕等 ●内子町移住体験交流施設「二宮 邸」の令和7年度利用者実績は、延 べ905人（宿泊者73人、利用者822 人、見学者10人）で、田舎暮らし体 験を通して関係人口の創出に努め た。

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-1 心通う旅に出会うまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	安心安全な観光地づ くり	○観光関連事業者や地域住民に対するイン バウンド対応の理解促進に取り組みます。 ○災害発生時の観光客対応の明確化に取り 組みます。 ○既存の観光資源のDX化により、利便性の 向上やユニバーサル対応の充実を目指し ます。	内子町防災計画 での観光客対応 の明文化	0記載	2記載	1記載以上	★	○DXを活用した観光振興の 強化 （デジタルマックやデジタル サイネージを活用など）	●デジタルマップやデジタルサイ ネージを活用して、観光情報や避難 所情報などの多言語での情報発信に 取り組んだ。更には、観光パンフ レット等からデジタルマップなどへ の導線を確保した。 ●郵便局と連携して町内の郵便ポス トへの観光情報・災害時避難情報・ 広報情報が提供されるよう、ポスト への情報掲示用ステッカーを景観に 配慮して作成した。
町並・地域振 興課	持続可能な観光の取 組み	○旅行者の意見を調査し、調査結果に基づ いた、旅行者満足度向上のための対策を講 じます。 ○町民や事業者等と連携し、JSTS-D に沿った取り組みを行います。 ○観光消費額を調査・公表し、経済波及効 果の拡大に取り組みます。 ○グリーンツーリズムの更なる推進を図る ため、教育旅行の受け入れ環境整備など農 村での観光交流を支援します。 ○匠づくり奨励金など観光に携わる産業の 担い手育成支援事業の拡充を行います。 ○交流人口獲得に向けワーケーションや農 業・伝統文化等の体験活動による体験価値 の向上に取り組みます。 ○効果的な事業展開を図るため、地域おこ し協力隊などの外部人材を積極的に受け入 れます。	観光客満足度調 査（日本人） （マーケティ ング調査のNPS 結果）	日本人 23.5	日本人 23.3	日本人 24.0	★	○観光マーケティング調査の 継続実施 ○（一社）内子町観光協会と 連携した誘客の促進 ○日本版持続可能な観光ガイ ドライン（JSTS-D）の推進 ○地域の担い手と連携を図 り、組織強化を進める。 ○巧づくり奨励金制度の活用	●観光マーケティング調査から、 ・日本人は、特に酷暑の影響から、 夏季は来町者が15%前後下落した が、暑さの中でも飲食や買い物をも 柔軟に楽しめるため、満足度はそこま で悪化しなかった。 ・外国人は、酷暑の影響で「暑い の中での町歩き」そのものを楽し なかったことや、9月以降に本格的な 耐震工事が始まった為「内子座」の 内・外観が見られなくなったこと で、評価が厳しくなった。 ●観光消費額 今年度から町内のビジネスホテル （約39,000人泊）も集計に加わった ため、対前年116.2%となった。ホ テル分を除くと同105.1%。 ●持続可能な観光地づくりに関する 組織を作り活動を継続している他、 JSTS-Dロゴ使用申請を内子町・観 光協会で行い承認された。 ●教育旅行の受け入れ等により農村 での観光交流の推進を図った。受入 宿1軒が高齢により退会したもの の、新規開業を予定する動きもあ り、受入体制の維持に向けた取組が 進んだ。 ●和紙関連産業の担い手確保を目的 に、匠づくり奨励金制度を活用し、 後継者1名の育成支援を実施した。 なお、当該支援者は令和6年1月か ら研修を開始し、令和8年12月ま での3年間を支援期間として継続実 施している。
			観光客満足度調 査（外国人） （マーケティ ング調査のNPS 結果）	外国人 42.8	外国人 27.8	外国人 43.0	★		
			総観光消費額 （単年度）	1,253百万円	2,439百万円	3,347百万円	★		
			GT宿泊数	13件	12件	18件	—		
			伝統産業技術研 修者の育成者 （累積人数）	3人	3人	6人	—		

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-2 「うちこ」の魅力を発信できるまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	観光マーケティング 調査・分析とその結 果に基づく効果的な 情報発信の実施	○旅マエ・旅ナカ・旅アトに合わせた効果 的な誘客プロモーションを行います。 ○英語圏のインバウンド客は、「日本らし い」、「内子にしかない」、「共感できる ストーリー」などが響くとされるため、内 子のコンテンツが効果的に伝わるプロモ ーションを行います。 ○地域住民や観光客が自ら観光情報を発信 できる仕組みの構築を検討します。	webサイト （内子さんぽ） のアクセス数 （単年度）	198,852回	166,035回	300,000回	★	○魅力的な観光情報の発信 ○観光行動を促進する情報発 信の実施 ○町民参加の機運醸成	●内子町観光協会のSNS （Instagram、Facebook、YouTube） を活用し、旅マエ・旅ナカ・旅アト を意識した観光情報の発信を実施し た。 ●観光庁事業を活用し、英語圏イン バウンドを意識した内子らしい体験 型コンテンツ「Meet The Local」を 造成し、旅行会社向け商談会におい てプロモーションを実施した。 ●観光に対する住民意識や情報発信 への参加意向を把握するため、住民 意識調査を実施した。
			webサイト （uchiko genic）のアク セス数（単年 度）	7,520回 ※R7修正	12,885回	20,000回 ※R7修正	★		
町並・地域振 興課	観光関連団体や企 業、他自治体との連 携	○海外へのプロモーションに向けて、愛媛 県や近隣市町、DMO組織等との連携による広 域的なPRを行います。 ○SNSを活用した戦略的PRを行います。 ○宜野座村やローテンプルク市と連携した 情報発信により、国内外へのPRを図りま す。	DMO等と連携 したマーケット （商談会等）へ の発信（単年 度）	1件	4件	5件	★	○インバウンド客への対応強 化 ○姉妹都市と連携した情報発 信	●VJTM&VJMM2025（愛知・9月） 町内の観光資源や体験コンテンツを PRし、誘客促進を図った。 ●四国ツーリズム創造機構主催イン バウンド旅行会社向け商談会（12 月） 観光素材の提案と意見交換を行い、 継続的な送客につなげるよう取り組 んだ。 ●観光庁「地域観光魅力向上事業」 旅行会社と事業者の商談会（1月） 造成した観光コンテンツを旅行会社 へ提案し、販売促進と受入体制の改 善による誘客促進を図った。 ●愛媛県主催オーストラリアセール ス現地プロモーション（3月） 現地の旅行会社等に観光資源をPR し、インバウンド誘客の拡大を図っ た。

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
建設デザイン課	町並み保存をはじめとする景観・歴史的風致の維持向上	○内子町の景観・歴史的風致に関する学びの場を設け、その価値を再認識し美しい景観形成についての理解促進を図ります。	景観まちづくりフォーラムの開催（単年度）	1回	1回	1回	★	○景観まちづくりフォーラムの開催等による啓発活動。 ○景観まちづくり賞の実施。	●3月26日に景観まちづくりフォーラムの開催し48名が参加。 ●景観まちづくり賞については候補者無しのため未実施
町並・地域振興課	町並み保存をはじめとする景観・歴史的風致の維持向上	○内子町の景観・歴史的風致に関する学びの場を設け、その価値を再認識し美しい景観形成についての理解促進を図ります。 ○歴史的建造物の建物調査等を行い「内子らしさ」への理解を深めることで、豊富な資源をさらに磨きます。 ○重要文化財内子座の保存修理事業や伝統的建造物群保存地区保存修理事業等、歴史的建造物の保存活用事業に取り組みます。 ○歴史的風致維持向上計画推進協議会等を開催し、各課が協力して進捗評価や事業間調整をすることで、横断的な事業推進に努めます。	伝建地区内の修理・修景事業の推進（累計）	13件	(R7.12件) 累計12件	80件	★	○内子座保存修理工事の実施（継続） ○内子座保存修理見学会の実施 ○内子座保存修理に対するクラファン等の検討・実施 ○内子座防災施設整備事業及び公開活用事業の実施設計完成	●内子座保存修理工事の実施（継続） ●内子座保存修理見学会の実施：9月13日・15日 86名参加 ●内子座保存修理GCFの実施：10月31日～12月31日 1,210,000円、指定寄附金240,000円 ●内子座高付加価値化改修事業の実施：防災と活用を一本化した事業として補助申請、交付決定を受け、実施設計を完了した。 ●内子座保存修理事業の理解を深めるため、記録映像撮影と公開、パンフレットやかかわら版を作成・配布（公開）した。
			歴史的建造物の建物調査の推進（累計）	0棟	0棟	5棟	—	○伝統的建造物群保存地区における修理・修景事業の実施 ○伝統的建造物群保存地区保存審議会の実施 ○歴史的風致維持向上計画推進協議会の実施 ○「坂町小公園」整備事業の実施	●伝統的建造物群保存地区における修理・修景事業を国庫補助1件、町単9件、防虫2件実施した ●伝統的建造物群保存地区保存審議会を2回開催し、事業報告や現地視察を行った ●「坂町小公園」の名称を「坂町ひろば」に改めて整備工事を実施し、完了した ●歴史的風致維持向上計画推進協議会の実施 ●歴史的風致形成建造物候補の調査状況整理を行った

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
自治・学習課	町並み保存をはじめとする景観・歴史的風致の維持向上	○内子町の景観・歴史的風致に関する学びの場を設け、その価値を再認識し美しい景観形成についての理解促進を図ります。 ○歴史的建造物の建物調査等を行い「内子らしさ」への理解を深めることで、豊富な資源をさらに磨きます。 ○歴史的風致維持向上計画推進協議会等を開催し、各課が協力して進捗評価や事業間調整をすることで、横断的な事業推進に努めます。 ○文化財に特化した内子町文化財保存活用地域計画を作成し、歴史的風致維持向上計画と合わせ「内子らしさ」の価値継承を図ります。 ○中世城館跡など土地に埋蔵されている文化遺産を解明できるよう、町内の遺跡調査を進めます。	内子町文化財保存活用地域計画作成	未着手	協議会設置要綱の制定	作成	★	○内子町文化財保存活用地域計画作成作業（課題、方針の整理等）、地域住民や関係機関との調整、委員委嘱に係る条例改正、作成に係る補助金申請、協議会の立ち上げ ○内子町遺跡調査指導委員会（仮称）設置に向けた準備、遍路道試掘調査の実施、郷土講座（ふるさと学のスヌメ）と連携した町内遺跡各種調査	●内子町文化財保存活用地域計画作成にかかる準備として委員交渉と協議会設置要綱を制定した。 ●内子町遺跡調査指導委員会設置要綱を制定。伊予遍路道大寶寺道「下坂場峠」の試掘調査や居倍野城跡の表探調査を行った。また過去の発掘調査の見直しとして太田城跡の遺物を再評価する講座を行った。
			町内遺跡調査件数（単年度）	3件	3件	3件	－		
町並・地域振興課	歴史的資源を支える担い手の支援・確保	○伝統的建造物の保存修理に関わる職人などの技術継承者の育成・確保の支援を行います。また、県内の伝統建造物群保存地区等との情報共有等連携を図ります。 ○八日市護国町並保存会などの歴史的資源を支える団体やその活動に対する支援を行います。 ○伝統行事等の継承や担い手確保の支援のため、大学との連携や外部人材の活用を図ります。 ○学芸サポーターを育成し、歴史的資源の調査・活用を積極的に行います。	学芸サポーター数の増加（累計）	21人	町全体分 計34人 （上芳我分+1人増）	50人	★	○学芸サポーターによる活動の実施 ○八日市護国地区町並保存会への活動支援 ○風雅の活動支援 ○担い手育成事業	●左官業において1人就業した ●学芸サポーターによる活動を毎月1回（計12回）の実施した ●八日市護国地区町並保存会の活動について、役員会や親月会、県外研修、防災訓練、どんと焼きなどの活動を支援した ●学芸サポーター内子れきみんなの活動として、薬瓶調査、民具調査、「永代録」講読会の3つの活動を継続した。 ●風雅の活用支援とし、月1回の定例会に参加するとともに、芋名月や新たなイベント「止談風月の夜」の開催実施支援等をした。
自治・学習課	歴史的資源を支える担い手の支援・確保	○伝統行事等の継承や担い手確保の支援のため、大学との連携や外部人材の活用を図ります。 ○町誌編集事業から続く歴史文化の啓発講座「ふるさと学のスヌメ」を企画し、歴史的資源を支える担い手育成の機会を提供します。	講座「ふるさと学のスヌメ」受講者数（単年度）	63人	135人	70人	－	○歴史文化の啓発講座「ふるさと学のスヌメ」を実施	●地域では臼杵地区に伝わるお練りを、また、第11回伝統芸能まつりでは小田獅子舞保存会指導による獅子舞を、内子高等学校小田分校生が披露した。 ●内子の眠れる文化財と題する考古資料の保存と活用や、内子監視哨の記録、太田城が伝える戦国の暮らし企画を実施した。

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振 興課	文化芸術等の推進	○「内子町文化芸術推進基本計画」に基づく文化芸術の推進に取り組みます。 ○内子座以外での文化芸術事業の積極的な実施や、文化芸術の発表機会、体験機会の創出及び新たな層に文化芸術に触れてもらうための取り組みを実施します。	文化芸術を鑑賞する町民の割合（文化芸術推進基本計画（2025～2029）において最終年度に実施するアンケートで算出する）	83.90%	-	90%	-	○文化創造事業としてはスバルなどで3事業を予定している。 ○狂言くらぶ事業（5月～稽古、夏：普及WS、10月上旬披露公演） ○大阪桐蔭高校吹奏楽部演奏（12/20スバル） ○立川晴の輔・神田京子二人会（2/8共生館） ○内子座楽屋を活用したミニコンサートや内子座楽屋のサインをテーマにしたワークショップの実施 ○文化創造事業実行委員会を開催し、実行委員会の運営の改善を図るとともに、第2期計画の推進を行う。	●文化創造事業として予定していた3つの事業を実施した。 ①狂言くらぶ事業：稽古18回、10月4日にスバルにて披露公演を実施したほか、小田小学校を対象に狂言WSを実施し、3回の稽古を経て披露公演にて成果披露した。 ②大阪桐蔭高校吹奏楽部演奏会：12月20日、スバルにて実施。中学生等を対象と一般向け対象の2公演を実施した。 ③立川晴の輔・神田京子二人会：2月8日共生館ホールにて実施した。 ●内子座楽屋の活用 ①ミニコンサートの実施：地元を中心とした出演者による春夏秋冬の4回実施 ②「サイン作成ワークショップ」と企画展：7月29日に小学生対象と中学生以上対象に2回実施。作成したサインを、楽屋搬入口にて展示した。 ③「内子座の瓦」展の実施：保存修理工事で行われた瓦を展示するとともに、保存修理事業の周知に努めた。 ④アート工事幕の掲出：ジブリ元美術部の方の絵をアート工事幕として掲出した。 ●文化創造事業実行委員会を3回開催。それぞれWS形式で行い、組織や運営の改善をめざした。第2期計画にもとづき文化芸術政策を推進し、進捗管理・評価シートにまとめた。
			文化芸術的な魅力を感じる町民の割合（文化芸術推進基本計画（2025～2029）において最終年度に実施するアンケートで算出する）	93.20%	-	100%	-		
			文化芸術活動をする町民の割合（文化芸術推進基本計画（2025～2029）において最終年度に実施するアンケートで算出する）	39.90%	-	50%	-		
自治・学習課	文化芸術等の推進	○内子町伝統文化継承団体連絡会を母体に、未指定も含む無形民俗文化財の保護・継承を図ります。 ○内子座文楽など全国の内子座ファンを取り込む文化芸術等の企画を試み実施します。 ○歴史的資源を活用したアートに着目した取組を検討します。	文楽企画の町民鑑賞率	11%	15%	15%	-	○内子町伝統文化継承団体連絡会において、諸団体の継承及び活性化に寄与すべく第11回内子町伝統芸能まつりを開催。立川神楽など無形文化財の動画記録を行いプロモーション動画を作成する。 ○新企画「内子The文楽2025」を展開。生誕150年を迎える高橋龍太郎翁の生家「高橋邸」、および町指定文化財「高昌寺」での文楽公演を実施	●内子町伝統文化継承団体連絡会において、第11回内子町伝統芸能まつりを開催した。立川神楽や五十崎風踊りなどの動画記録を行いプロモーション動画を作成した。 ●「内子The文楽2025」を文化交流ヴィラ高橋邸および護国山高昌寺にて行い約200人が鑑賞した。また生誕150年を迎えた高橋龍太郎翁記念事業の一環としても盛況となった。

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振興課	歴史を活かしたまちづくり推進のための拠点・体制づくり	○古民家を改修した歴史まちづくり拠点等の整備を推進します。 ○「内子らしさ」の発信拠点となる町内博物館（資料館）の再整備について検討します。 ○歴史まちづくり推進のための庁内体制を整備し、情報共有の緊密化や専門家によるサポート体制の構築を進めます。	上芳我邸の入館者数	32,057人	60,889人	50,000人	ー	○木蠟資料館上芳我邸の管理運営及び他資料館との連携 ○観光客の誘客と木蠟生産の普及啓発 ○旧森家住宅をまちづくり推進の拠点として活用できるよう改修事業を実施 ○旧森家住宅を持続可能な施設にするための管理運営体制を構築	●上芳我の入館者数 有料49,250人（内LCC 35,310人）＋無料11,639人＝60,889人 ●上芳我や歴民、自治学習課がそれぞれ実施した展示会で、連携して実施することができた ●福岡県にハゼの生産について研修に行くなど研鑽に努めた ●旧森家住宅の改修事業を実施（2期工事分／令和8年7月末完成予定） ●旧森家住宅の管理運営体制構築に向け、組織の中心となる指定管理者を公募。併せてテナントも公募した。持続可能な組織づくりを検討するため、事業者伴走支援事業、ビジネスプランコンテスト等を実施した。 ●学芸員等が課を超えた情報共有や活動などで連携する「学芸連携会議」を実施した。
自治・学習課	歴史を活かしたまちづくり推進のための拠点・体制づくり	○「内子らしさ」の発信拠点となる町内博物館（資料館）の再整備について検討します。 ○歴史まちづくり推進のための庁内体制を整備し、情報共有の緊密化や専門家によるサポート体制の構築を進めます。 ○デジタルアーカイブ化した歴史的資料を公開するためのプラットフォームづくりに取り組みます。	歴史資料のデジタルアーカイブ化（単年度）	100点	20点	100点	★	○資料のデジタルアーカイブ化を継続して行い、関係する町並・地域振興課と連携してプラットフォームづくりを検証する。	●戦後80年企画の効果により、多くの戦時資料が寄贈に至り記録した。

基本目標：Ⅲ魅力づくり 分野テーマ：Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち

担当課	基本計画の 主な取り組み	取り組みの概要	KPI（重要業績評価指標）				重点 施策	7年度の実施計画	7年度の取り組み実績
			指標の名称	現状値 （令和5年度）	実績値 （7年度）	目標値 （令和11年度）			
町並・地域振興課	歴史資料・資源の調査と公開・活用の促進	○資料のデジタルアーカイブ化による活用を促進し、学校で活用できる教材づくりや、観光・商業活動などへの資料・情報提供に加え、大学生や研究者の研究成果等も収集・公開する仕組みを作ります。 ○増加する調査・保存を要する資料や案件への対応・収蔵方法を検討します。 ○歴史を活かしたまちづくり活動に住民の参画を促進するため、展示や講座などの普及活動の継続と効果的な情報発信に加え、関わり方の選択肢を増やすための取り組みを検討します。	歴史的資源を活用したワークショップの参加人数（単年度）	68人	上芳我分 57人 歴民分 10人	100人	—	○高橋龍太郎生誕150周年記念事業の実施 ○県主催のアートベンチャーえひめに参画。小田地域でサテライト会場を設置し、同地域の歴史的資料等を活用する ○上芳我と風博物館で企画展、ワークショップを実施 ○「れきみん公開講座」の開催	●高橋龍太郎生誕150周年記念事業の実施：次のような事柄を通じ、高橋龍太郎を顕彰するとともに、高橋邸の周知を拡大に務めた。①パネル展「日本のビール王・高橋龍太郎」5/1～5/30@内子町図書館2階 ②「止談風月の夜」7/19, 9/13, 12/13の3回@高橋邸及びギャラリー創是 ③高橋龍太郎杯（8/2, 3サッカー 10/13ソフトボール） ④高橋邸ダイニング 11/29@高橋邸 ⑤内子the文楽2025において、高橋邸を会場に実施するとともに、義太夫節で龍太郎の逸話を語るオリジナル素浄瑠璃を披露した。 ●歴史民俗資料館にて高橋龍太郎生誕150周年記念特別展と関連講演会を開催し、4224人の来場者を得た。 ●小田地域がアートベンチャーエヒメフェス2025の会場となり、地域の歴史文化を活かしたアート作品の展示や催しを行った。 ●歴史民俗資料館などで小学生向けの昔のくらし体験学習を実施した。 ●木蜋資料館で7-9月に企画展「学芸サポーター活動成果報告展」を開催した ●上芳我の蔵などにて、ワークショップ（クレヨンや保湿クリーム作り・樺染めなど）や襖剥がし体験を延べ13回実施した ●いかざき風博物館にて、大洲和紙を使った体験ワークショップとして、風・うちわ作り体験を行った。（風作り体験299人、うちわ作り体験102人。）
自治・学習課	歴史資料・資源の調査と公開・活用の促進	○資料のデジタルアーカイブ化による活用を促進し、学校で活用できる教材づくりや、観光・商業活動などへの資料・情報提供に加え、大学生や研究者の研究成果等も収集・公開する仕組みを作ります。 ○増加する調査・保存を要する資料や案件への対応・収蔵方法を検討します。 ○歴史を活かしたまちづくり活動に住民の参画を促進するため、展示や講座などの普及活動の継続と効果的な情報発信に加え、関わり方の選択肢を増やすための取り組みを検討します。	—	—	—	—	—	○資料のデジタルアーカイブ化を継続して行い、関係する町並・地域振興課と連携して調査や公開、活用の推進を図る。 ○戦後80年を鑑み、資料館所蔵の民具も活用した戦争に関する巡回展示を実施	●歴史資料の調査を進めながら、公開・活用の在り方を研究した。 ●戦後80年特別企画展示「内子と戦争～あの時この場所では～」を行い、5自治センターを巡回し、約100人が来場した。

令和8年度 第1回内子町まち・ひと・しごと創生推進会議での主な意見等

基本目標	Ⅲ魅力づくり
分野テーマ	Ⅲ-1 心通う旅に出会うまち
	Ⅲ-2 「うちこ」の魅力を発信できるまち
	Ⅲ-3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち
意見等	・英字新聞が世界に発信するに値する日本の自治体に町並み保存地区が選定されたことも含めて、内子町のまちづくりの原点に力を入れるべきではないか。 ・旧森家住宅の改修後の運営について、からりも出店しており期待している。現在はどのような状況か。また今後の具体的な計画はあるか。 ・町並みを歩いているのはほとんどが外国人（特に韓国人）に見える。実際に日本人との割合はどのくらいか。また、韓国からの観光客はどういう動向・状況か。 ・インパウンドの消費を増やすため、飲食店の水曜定休の分散やクレジット決済の導入について、行政から店側への働きかけや施策はどのようにお考えか。 ・酷暑による観光満足度の低下への対策として、ミストの設置やアイスタオルの貸し出し、休憩所の設置など、具体的な工夫が必要ではないか。また、消費行動がコンビニ利用で終わっていないか、さらなる分析が必要ではないか。 ・マーケティングの結果を「酷暑」とするなら、「暑さ対策」をどうするかという視点になるが、他に要因がありそうな気もするので、ぜひ結果を分析いただきたい。 ・「観光拠点」の意味として、例えば「四国の玄関口としての拠点」「瀬戸内経済圏の玄関口」などということを考えていくべきではないか。例えば、透析が必要な旅行者のための医療体制を観光プランに組み込むなど、長期間の滞在ができ、またそこから町外への観光ができるような観光需要もあるのではないか。 ・町民アンケートでは、オーバーツーリズムに対する課題ではなく、「内子が観光地である」という認識が薄いという結果が出ている。町民の意識へ働き掛けていくことも合わせて取り組むことが必要だと思う。